

民具の機能分析に関する基礎的研究

期間：2017年4月1日～2021年3月31日

〔共同研究者〕眞島俊一（テム研究所）

佐野賢治（日本常民文化研究所）

山田昌久（首都大学東京）

山川志典（筑波大学大学院人間総合科学研究科
世界文化遺産学専攻博士後期課程）

〔代表者〕神野善治（武蔵野美術大学）

〔研究協力者〕川野和昭（南方民俗文化研究所）

佐々木長生（福島県民俗学会）

宮本八恵子（日本民具学会）

鍋田尚子（歴史民俗資料科学研究科
博士後期課程）

〔業務協力者〕長井亜弓

民具の形態と機能

—「棒」状の民具と「柄」のあり方を見定める—

研究代表者 神野 善治

研究テーマに掲げている「民具の機能分析」の基礎作業として、まず身体機能と道具のあり方について、これまでに多くの蓄積があるフランスにおける身体技法論（マルセル・モースやルロワ・ゲランなど）の研究について予備的学習を行った。また、近年「日本人の坐り方」の著作がある椅子のデザイナーにして武道家・茶道家として多面的活動をされている矢田部英正氏の助言を得て公開



写真1 渡邊淑恵氏による「緇(復元)」の実演後、機能解説を行う山田氏（於：うきたむ風土記の丘考古資料館）



写真2 矢田部英正氏による公開講演「坐り方と椅子のデザイン～身体技法論をめぐって～」(於：日本常民文化研究所会議室)

の研究会が開催できた。この作業で、身体機能の延長として民具をとらえる手法を模索する。また、研究チームの主要な活動として、国の重要有形民俗文化財に指定されている民具コレクションを選んで民具の機能分析を行うという方針から、富山県砺波市の郷土資料館が収集した民具について、検討対象にすることに地元関係者の合意が得られ、2度にわたりメンバーが訪問して、地元学芸員および収集担当者と研究会を発足させた。神奈川大学においては、分析作業チーム（神野・長井）が、民具の機能と形態に関する分析方法について、砺波のコレクションの民具ひとつひとつから基本的な機能と形態をそれぞれ抽出する作業を始め、年間を通して作業を継続した。このうち、もっともシンプルな形態のひとつとして「棒」状の民具を取り上げ、かつ、人が手に持って用いる民具に共通する「柄」や「取っ手」「握り」の機能について検討する作業を行った。

また、メンバーそれぞれの得意な地域や対象民具の種類に応じて、東北・南九州・東南アジアに詳しいメンバーはその地域の民具について、また専門分野ごとに、各研究地域・対象の民具における「棒」状の民具と「柄」のあり方を検討。作業チームは砺波のコレクションにおける「柄」

のあり方を素材に、「柄・取っ手・握り」の基本的なあり方を整理。佐々木は福島県会津地方の民具について、川野は鹿児島とラオスの民具についてそれぞれこの作業を行い、山田は出土遺物における木製品、とりわけ「棒」について分析した結果を報告。さらに宮本は織機における棒と糸の基本的なあり方を提示して研究会で発表した。身体と民具の接点となる「柄」のあり方が見えてくることで、次には工具的・能動的な働きをする民具それぞれの「作用部」のあり方を分析する手がかりが見えてきたように考えている。当初、想定した研究対象について、具体的な検討が可能になったので、地元の学芸員および収集担当スタッフとも共同で検討作業をすすめることで、今後もこの路線で後2年間に研究を深めていくことができると考えている。

海外調査については、2年目に想定していたベトナムでの民具調査を前倒しで実施した。現地調査は実質3日間だったが、フエ科学大学歴史学科との交流の手がかりができて、中部のフエ市近郊の生活雑器コレクションと、農業資料館の農耕具・漁労具コレクションについてデータ収集を行い、今後の展開の可能性を探ることができた。



写真3 新藤正夫氏（砺波郷土資料館元館長、地理学者）と河合潤子氏（地元農業者）に聞き取り調査を実施（於：砺波郷土資料館）



写真4 伝統的な屋根付き橋で休む老婦から話を聞く（於：ベトナム／タン・トアン村）

■活動データ

2017年度の活動

- 意見交換（1）：準備打合せ 2017年5月12日 武蔵野美術大学 神野善治・山田昌久・長井亜弓
- 砺波調査：基礎資料選定および協力要請 2017年5月23日
砺波民具展示室、砺波郷土資料館 神野善治・長井亜弓、齊藤恵子・安カ川恵子（砺波郷土資料館）
- 第1回共同研究会・公開研究会「坐り方と椅子のデザインー身体技法論をめぐってー」 矢田部英正（造形作家）
2017年6月19日 国際常民文化研究機構、日本常民文化研究所 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・長井亜弓
- 意見交換（2）：調査方法についての打合せ 2017年8月23日 武蔵野美術大学 神野善治・宮本八恵子・長井亜弓
- 第2回共同研究会：砺波・氷見民具調査 2017年9月30日～10月1日 砺波民具展示室、氷見市立博物館・氷見市文化財センター 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・長井亜弓、齊藤恵子・安カ川恵子・渡辺礼子・新藤正夫・河合潤子（砺波郷土資料館）、廣瀬直樹（氷見市立博物館）
- 第3回共同研究会：米沢民具調査 2017年10月27日～28日
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館、高島町郷土資料館、赤崩草木染研究所 神野善治・佐野賢治・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・長井亜弓
- 第4回共同研究会：『箕サミット』への参加ほか 2017年11月13日～14日
東京文化財研究所、国際常民文化研究機構 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・長井亜弓、宋奇泰（韓国木浦大学校島嶼文化研究院）・神野知恵（通訳者）
- 第5回共同研究会：狭山地区民具調査 2017年12月16日～17日
所沢市山口民俗資料館、武蔵村山市立歴史民俗資料館 神野善治・眞島俊一・山田昌久・山川志典・佐々木長生・川野和昭・鍋田尚子・宮本八恵子・長井亜弓、宮坂卓也（テム研究所）
- 共同研究間 共同研究（一般）「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」との交流調査 2018年1月19日～21日 国立民族学博物館 神野善治
- ベトナム民具調査 2018年2月4日～8日 ベトナム フエ周辺地域／フォック・ティク村、タン・トアン村、農業博物館（タントアン・ミュージアム）、フエ科学大学、シン村 神野善治・佐野賢治・眞島俊一・山川志典・鍋田尚子
- 宮崎県竹製民具調査 2018年2月26日～3月2日
宮崎県児湯郡諸塚村、西臼杵郡高千穂町、日之影町、東臼杵郡北川町 川野和昭